



2017年8月発行

TEL/FAX:(0265)39-2205 E-MAIL:mtl-muse@osk.janis.or.jp

## 遠山川の上流にある島とは？

7月17日(月)に伊那谷自然友の会主催のジオツアー「遠山川上流の崩れと侵食地形」に参加しました。遠山川は、下栗の里のある斜面の谷底を流れる川で、斜面の下の方ほど急傾斜になっており、谷を侵食する力の大きさを感じられます(写真1)。今回は、特別に許可をいただいて、車で遠山川沿いを上流に向かいます。途中、「<sup>ほとけじま</sup>仏島」という地名があります。こんな山の中に島があるというのはいったいどういうことでしょうか？仏島を地形図で見ると、円の中心に小さな丘があって、そのまわりに平坦面が広がっているがわかります(図1)。この平坦面は、道路から数メートル高いところにあるので、現地道路から上を見上げて全貌がよくわかりませんでした。グーグルアースだと平坦面が半円状に広がる様子が良く見えます(図2)。ここは、昔、蛇行して流れていた川が短絡して流路跡になったところで、<sup>かんりゅう</sup>還流丘陵というそうです。

同じように蛇行した川が短絡してできる地形に<sup>みかづきこ</sup>三日月湖というものがあります。三日月湖は河床勾配が緩く、堆積層の中を流れているようなところで、洪水のときに流路が短絡されて、もとの流路のところ<sup>三日月</sup>の形をした湖になったものです。図3は、静岡県を流れる狩野川にある三日月湖ですが、三日月湖の周辺は地盤が軟弱で、田んぼが広がっています。

仏島では、短絡してできた現河道は川幅が非常に狭い溪谷になっており、洪水のときの水の力だけで掘り込むのはちょっと難しいようにも感じられます。案内人の村松さん(飯田市美術館学芸員)は、何らかのイベントで短絡する部分の尾根の高さより高い位置まで水位が上がったために、短絡ルートにも水が流れるようになったことがきっかけとなり、恒常的に短絡ルートを川が流れるようになったのかもしれないとおっしゃっていました。

仏島を後にして、さらに上流に向かうと「<sup>たよりがしま</sup>便ガ島」に着きます。(図4)ここは<sup>ひじりだけ</sup>聖岳の登山基地となっており、平らな広場の上に東屋やトイレがあります。ここも仏島と同じく、還流丘陵です。昔、森林鉄道が通っていたときに、ここで軌道を何度もカーブさせつつ高度を上げていたそうです。便ガ島の旧河道は、現河床からの比高が30mくらいあります。南アルプス南部地域は隆起速度が速く、川の侵食速度も速いため、旧河道である平坦面は河床からだいぶ高いところにあり、完全に干上がって段丘のように見えます。(宮崎)

### ※参考書籍(博物館で閲覧可)

坂本正夫著「南アルプスジオパーク・エコパーク 遠山郷の魅力」南アルプスジオパーク研究会(2017)  
鈴木隆介著「建設技術者のための地形図読図入門第3巻段丘・丘陵・山地」古今書院(2000)

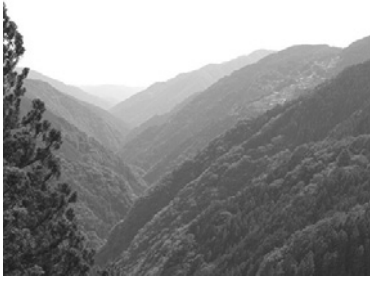


写真1 遠山川のV字谷と下栗の里

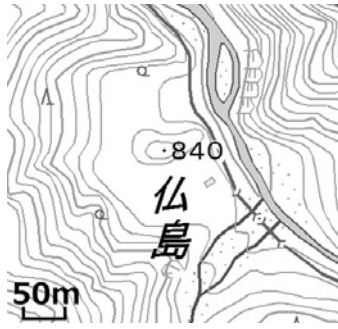


図1 仏島(地理院地図)



図2 仏島 (google earth)



図3 静岡県狩野川の三日月湖(地理院地図)



図4 便ガ島(地理院地図)

## 「大鹿村の石を集めた標本箱を作ろう！」

8月も後半になると、自由研究のために博物館に来られる親子連れが見られます。しかし、博物館の展示物を素材に自由研究を仕上げるのは、かなりハードルが高いようです。そこで、自由研究の素材にしていだけるようなものを提供できないかということで、ためしに標本箱(カモシカのロックンのシール付き!200円でお分けします。)を用意してみました(写真2)。大鹿村内のあちこちで集めてきた石を種類ごとに分けてパックにつめてあります(写真3)ので、気に入った石を選んで標本箱に入れて持ち帰っていただけます。もちろん、石はご自分で集めていただいてもかまいません。博物館前の<sup>こしぶかわ</sup>小渋川の川原でも、砂岩、泥岩、緑色岩、石灰岩、チャートといった<sup>がいたい</sup>外帯の石が拾えます。ただし、8月末までは、河川敷の草刈り工事が入ることがあるそうですので、十分お気をつけください。(宮崎)



写真2 標本箱



写真3 大鹿村の石あれこれ